

生体認証情報の取扱いについて

平成16年10月15日

東京三菱銀行

内 容

1. 生体認証情報の位置づけ
2. 生体認証情報の取得
3. 顧客アンケート調査
4. 手のひら静脈認証
5. 生体認証情報の登録・照合

1. 生体認証情報の位置づけ

- 生体認証は、本人確認の手段としてのみ活用する
- 生体認証情報は、個人情報のなかでも特に取扱いに慎重を要する (超)センシティブ情報
 - ・身体の特徴情報
 - ・取り替え不能 (変更ができない)

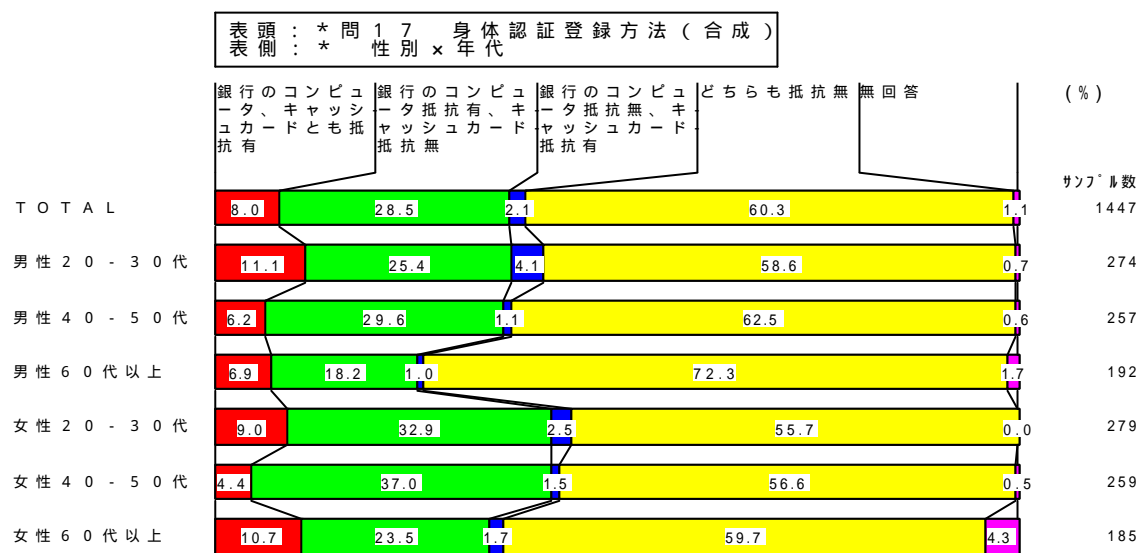
2. 生体認証情報の取得

- (1) 生体認証情報は銀行で保有しない
 - ・ (超)センシティブな個人情報
 - ・ 従業員の生体認証情報へのアクセス回避
 - ・ 漏洩リスクの回避
- (2) ICカードのICチップ内に保管する
 - ・ 照合処理もICチップ内で行なう
 - ・ ICチップは堅牢なセキュリティを有する
- (3) 利用はお客様の任意
- (4) 利用者の意向(次頁)

3. お客様アンケート調査

生体認証情報の保管について (銀行or ICカード)

- 「どちらも抵抗無」が約6割を占める
- 「ICカードに登録」することに抵抗を感じる人は10.1%であるが、「銀行が保有」は36.5%が抵抗を感じている



2003年12月郵送アンケート調査 (外部リサーチ会社に委託)
上記は調査結果を国政調査をもとにウェイトバック集計したもの

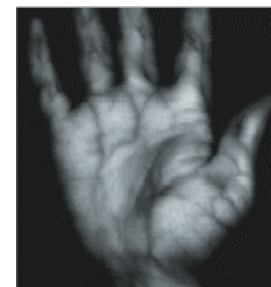
4. 手のひら静脈認証

- 近赤外線を用いて、手のひら画像を撮影し、静脈パターンを抽出して、これを登録済の生体認証情報と照合することで本人を確認する技術
- 登録される生体認証情報は、手のひら画像から抽出した静脈パターンを特徴化した情報。仮に、情報として取り出されても全体の手のひら静脈パターンを復元することは困難

静脈センサ

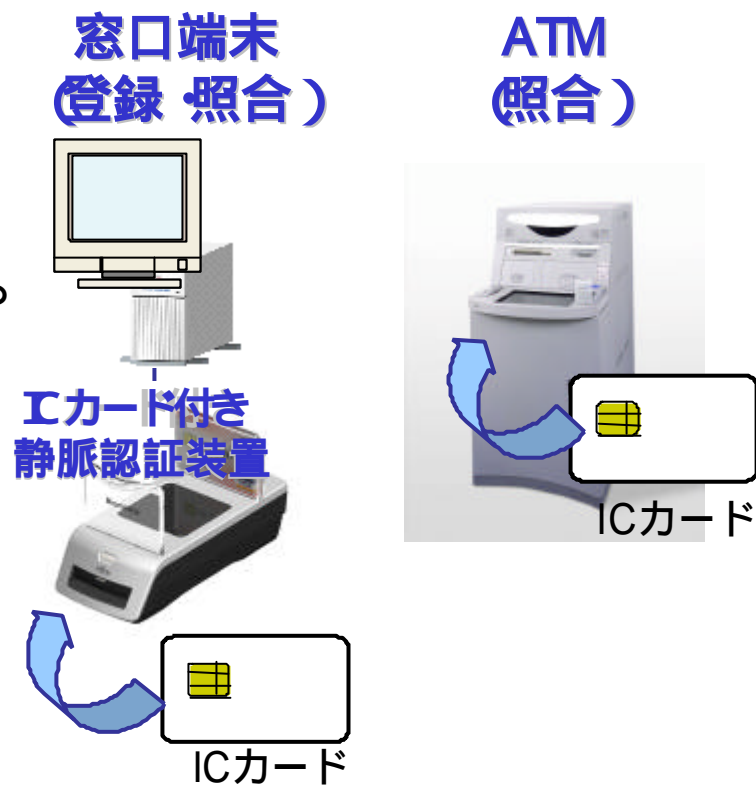


近赤外画像



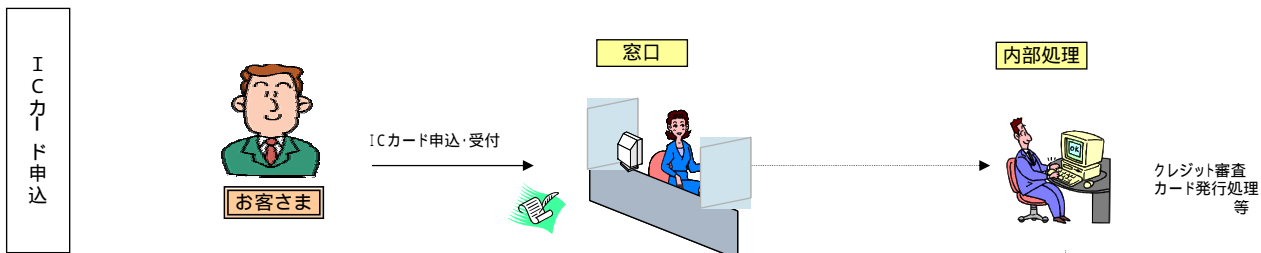
5. 生体認証情報の登録・照合

- ICカードのセキュリティ
 - ・ ICカード内のアプリケーションは書換えも読み出しもできない制御ロジックを有する
 - ・ ICカードと身体認証装置との間で認証を行なうので、不正な装置からアクセスは不可能
- 登録処理
 - ・ 生体認証情報は暗号化してICチップに登録
- 照合処理
 - ・ ICチップ内で登録情報と照合



取引の流れ(ＩＣカード方式による生体認証の活用)

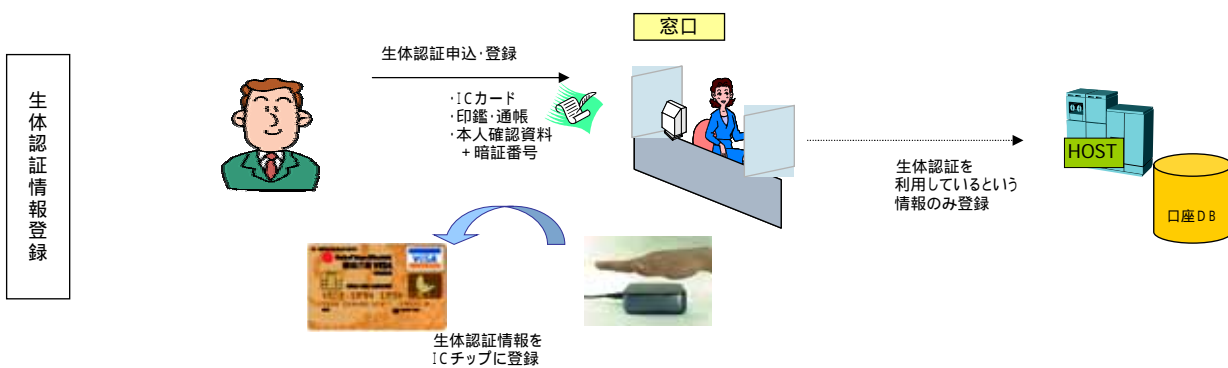
1



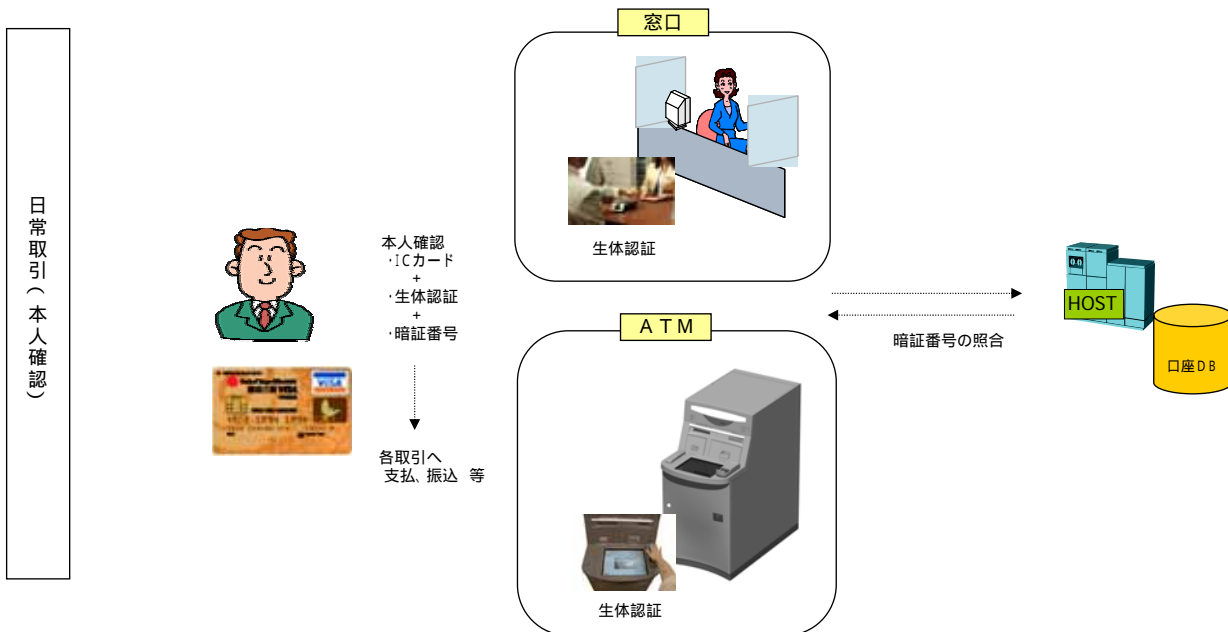
2



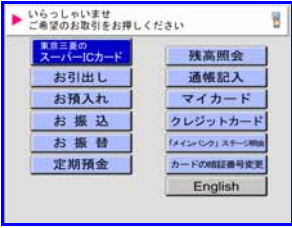


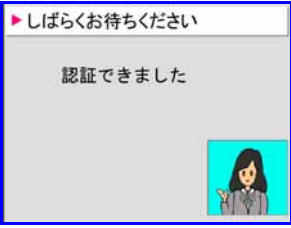

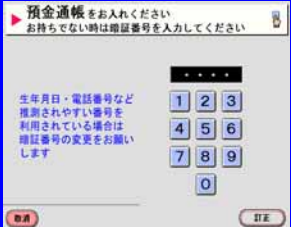


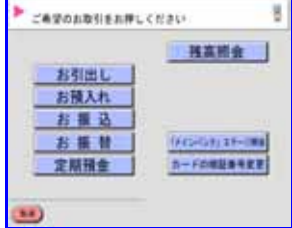




3



4



ATMカード支払取引フロー

1	<p>取引選択</p> 	8	<p>静脈認証処理（照合）中</p> 
2	<p>ICカード挿入</p> 	9	<p>照合結果通知</p> 
3	<p>キャッシュ/クレジット選択</p> 	10	<p>暗証入力</p> 
4	<p>ICカード読取</p> 	11	<p>金額入力</p> 
5	<p>取引選択 「お引出し」を選択</p> 	12	<p>HOST伝送中</p> 
6	<p>ICカード読取</p> 	13	<p>ICカード・現金返却</p> 
7	<p>静脈認証処理（撮影）中</p> 	14	<p>PR表示</p> 